

FMアップルウェーブ 第77回放送番組審議会

開催日時

平成24年12月12日(水) 17:00～18:00

開催場所

はなび(弘前市土手町)

出席委員

委員長 石岡 徹、副委員長 工藤 茂起

委員 鳴海 清彦、佐藤 浩之、渋谷 拓弥、相内 英之、高村 智子、太田 真理子

会社側出席者

代表取締役社長:清藤 哲夫、専務取締役:一戸 勝美、取締役:倉田 昌直、清藤 洋介、新戸部 洋輔

取締役:波多野 厚緑、南 直之進、放送部チーフ:花田 由香子

議題

(1)番組に対する意見要望

(2)次回開催日について *変更の場合は前もって連絡

議事の概要

○ 各委員が質問と意見や気が付いた点を述べる形で議事が進行した。

1)課題番組 『防災士の安心ワンポイント』(毎週水曜日18:05～)

- ①最近急な増水や竜巻などが実際に発生している。そのしくみについて理解できたので良かった。それらの説明の際に、普段の天気予報で耳慣れた言葉をひとつひとつ「それって何?」とインタビュアーが聞き返していた。わかっているようで実はあまりよくわからなかった言葉なので、それをきちんと説明しているのが良かった。「稲村の火」を題材に、改めて避難時に必要なことを再認識できた。
- ②「寒気」「前線」などについて詳しく聞いていたのが良かった。過去のデータを紹介していたが、知らなかったこともあったので良かった。「防災教育」が今後とても必要であると実感した。先日「防災士」の存在を初めて知った。
- ③「防災士」と「気象予報士」と何が違うのか。防災士とインタビュアーの掛け合いが、わかりやすい言葉を使っていて聴きやすかった。「稲村の火」の「火」を漢字でどう書くのかを説明してほしい。「防災教育」がなかなか弘前で進んでいかないのであれば、このコーナーを通じて教えられるようなものになればいい。
- ④弘前であったことなどを絡めることで、聴いている人がもっと実感がもてるのでは。「防災教育」を進めていかなければ、という点は非常に共感が持てた。聴く人がもっと「自分事」として聴けるような工夫をして、どんどん「防災」について発信していくべき。
- ⑤「防災士」があまり知られていない、よくわからない人も多い。「防災士」がどういう立場なのかをきちんと説明してほしい。教育番組として非常に良い。ただ、こういう性質の番組なので、インタビュアーは言葉の使い方、語彙に気をつけるべき。慣れ合いにならないように。
- ⑥キーワード、テーマを冒頭に提示してから話を進めていった方がいい。「稲むらの火」の「ひ」が「日」なのか「火」なのかが後半にならないと分かりにくい。大前提としてきちんと説明していればもっと分かりやすかった。
- ⑦専門用語などを説明するときの声が聴き取りにくくなる。原稿を見るのにどうしても下を見なければならぬのなら、そういったときでもきちんとマイクフォローするように調整してほしい。外で仕事をしている人は特に気象が気になる。気象のポイントなどもわかったので良かった。
- ⑧専門用語を改めて聞き返していたのが良い。難しい話は掘り下げるとなお難しくなることもある。奥が深い話であるにも関わらず、丁寧に説明してくれているのがとても良い。防災士の長尾さんの声もとても聴きやすい。「稲むらの火」が掲載されている教科書は弘前では使われていないが、教職員は題材として多く用いている。こういった話題をどんどん取上げてほしい。

【審議機関の答申または改善】

弘前市は過去にも地震では大きな被害はないので、番組の中でこういった災害に関する必要な知識を発信してほしい。

【審議機関の答申または改善意見の公表】

- 1)議事録を本社に配備し、社内各部署に配布
- 2)FMアップルウェーブのホームページに掲載